

会 議 録

1 会議名

令和6年度 第1回上越市子ども・子育て会議

2 議題（全て公開）

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 委嘱状交付

(4) 委員自己紹介

(5) 会長・副会長の選任

(6) 議事

ア 子ども・子育て会議について

イ 「上越市こども計画」の策定について

ウ 「上越市こども計画」の施策の体系について

エ 子どもの生活実態に関するアンケート調査の結果について

オ その他

3 開催日時

令和6年4月25日（木）午前10時から午前11時30分まで

4 開催場所

上越文化会館 大会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：宮森委員、鈴木委員、金子委員、荻野委員、石橋委員、遠藤委員
本間委員、中條委員、村本委員、山崎委員、山岸委員、安藤委員、
大久保委員、岡委員、中野委員、福井委員
- ・ 事務局：こども・子育て部 宮崎部長
こども家庭センター 田中所長、齊藤次長、飯野副所長、和栗副所長、

井川主査、庭山主事

・関係課：総合政策課 内山副課長、草間主任

幼児保育課 黒津課長、徳永係長、田中係長

学校教育課 小林課長、古川副課長

8 発言内容

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 委嘱状交付

(4) 委員自己紹介

(5) 会長・副会長の選任

委員の互選により、会長は安藤委員、副会長は大久保委員選任

(6) 議事

ア 子ども・子育て会議について

和栗副所長：資料 1、資料 2 により説明

(質疑応答なし)

イ 「上越市こども計画」の策定について

ウ 「上越市こども計画」の施策の体系について

和栗副所長：資料 3、資料 4 により説明

(イとウは関連するため、あわせて説明)

中條委員：資料 4、アンケート調査から見えてきた主な課題について、「母親の就労割合が増えている」と記載があるが、母親の就労割合が増えること自体は課題ではなく、それにより何らかの問題が起きているということだと思うので、表現を変更したほうがよいのではないか。

和栗副所長：表現方法を変更する。

山崎委員：資料 4、アンケート結果から見えてきた主な課題について、「ふたり親世帯に比べ、母子世帯において生活に困っている割合が高い」と記載があるが、ひとり親世帯のうち母子世帯だけが課題ではないと思われる。

和栗副所長： 後ほどアンケート結果について報告する際に説明させていただく。

安藤会長： 資料 3、「上越市こども計画」の策定について及び資料 4、施策の体系（案）を合わせて報告してもらった。事務局から示された計画の方向性についてご意見をいただきたい。

石橋委員： 子どもの権利について触れており、トレンドとして正しい方向だと思うが、子どもの意見をどのように計画に反映させるかについて教えていただきたい。

和栗副所長： 資料 3 のスケジュールに示したとおり、学校や各種のイベント等に出向き、直接子どもたちから意見を聴くことを計画している。

石橋委員： やる前に聴くということと、走り出してどうやって聞くか、ということはいかがか。

和栗副所長： 直接の意見として、まずはアンケート調査で子どもの声を聴いている。今後、子育て支援団体やこども食堂のイベントに出向き、子どもたちから直接意見を聴くことを計画している。

安藤会長： 石橋委員の発言の趣旨としては、計画の中にも子どもの声を聴くことを含めていく必要があるのではないかということか。

石橋委員： 可能であれば含めた方がよいと思う。

安藤会長： その部分については、具体的な策定案の検討のところで改めての検討になると思われる。

岡委員： 18 歳という年齢で区切ることなく、支援が必要な人を対象としていることはよいと思う。資料 4、基本施策 5-2「結婚を希望する方への支援」と記載があるが、具体的にどういった支援か。

内山副課長： 市の地方創生及び人口減少対策として地域全体で結婚・出産・子育てに関する機運を高め、希望を実現しやすい環境を整える様々な取組を行ってきた。その中で協議会を立ち上げ、参加団体が行う若者の交流や婚活のイベント等を補助事業として

後押ししてきた。また、若者の意向を調査し、結婚の希望や課題を踏まえ、昨年度は、婚活に取り組む人に対し、県のマッチングシステム登録に係る助成を開始した。市の第7次総合計画においても、結婚を希望する人を支えていくことを謳っており、今後も取組を強化していきたいと考える。

安藤会長： 資料4、施策の体系（案）基本目標2-2「多様な体験の場づくり」について、現行計画の基本施策は「こどもの居場所づくり」であるが、市の課題と照らし合わせ、こども計画においては「多様な体験の場づくり」としたと説明があったが、「多様な居場所や体験の場づくり」とし、「居場所」を前面に出したほうがよいのではないか。

和栗副所長： 他の委員の意見も参考にしつつ、引き続き検討をしていきたい。

安藤会長： 議題イ・ウについて、基本的なこども計画策定の趣旨やスケジュール及び現状や課題の整理、基本的な体系（案）についておおよそ了解いただいたということで進めてよいか。

各委員： 異議なし

エ 子どもの生活実態に関するアンケート調査の結果について

和栗副所長： 資料5により説明

安藤委員： こども計画策定に関わってくるような意見等は次回以降の会議になると思うが、アンケート結果の見方や分析の内容等質問や意見等はあるか。

山崎委員： 先ほどの議事において、アンケート調査から見えてきた主な課題として、父子世帯は母数が29世帯と少ないことから、ひとり親世帯のうち母子世帯において生活に困っている割合が高いと説明されたと思われるが、実際の困窮理由としては、就職や給料の問題、ジェンダーギャップ等が考えられる。課題を母子世帯に限ることにより離婚の際、親権をどちらが持つかという問題に繋がる恐れがあるため、母子世帯だけに焦点を

合わせるのではなく、ひとり親世帯へどのような支援が必要なのかという視点で検討するのがよいのではないか。

飯野副所長： 国において共同親権等の議論が進んでいることも踏まえながら、計画策定にあたって表現について検討していきたい。

大久保副会長： アンケート調査の結果について特に意見はなく実態調査の結果として理解している一方で、アンケート調査だけでは見えないことがあると感じている。こども計画の策定に当たって、委員皆さんから意見を聞くこと及び今後、基本施策に事業を落とし込んだ際、この基本施策でよいのか等、整合性を見ていく必要があると感じた。子どもの権利について、小中学校で子どもの権利学習テキスト「えがお」を活用し学習をしているが、アンケート調査の結果と実際の学校現場等における体感と一致しているか伺いたい。

鈴木委員： アンケート調査結果を見て安心した部分と、実際子どもたちから聴いている不安や不満等を考えると、素直に答えていないと感じる部分があった。

降園後や放課後に過ごす場所に関する設問の回答の選択肢の公的施設は、具体的にはどういうを場所を指すか。

和栗副所長： 公民館やこどもの家、児童遊園等が挙げられる。

鈴木委員： 保護者から放課後に公民館を開館していない、安心して子どもが遊べる場所がない、中学生は公園で遊んでいると騒がしいと言われる、小さい子どもが遊びに来ると場所を譲ることがあるため遊べる場所がほしいという意見を聞く。子どもたちの具体的な声を聴いてみたいと感じた。

安藤会長： アンケート結果からは見えてこないことについても、計画策定の段階では反映する必要があるという発言かと思われる。事務局からは、調査全体の結果としてこういう回答の傾向にあるということを報告いただいている。計画策定の際、どのデータがどのように根拠を支えるものになるかは今後になると思うが、中身について確認しておきたいところがあれば伺い

たい。例えばヤングケアラーや子どもの権利の認知度に関する調査結果について、小中学校で子どもと接している委員の体感は一致しているか伺いたい。

遠藤委員： 子どもにおいては小学校で権利学習を実施しているため、子どもの権利の認知度はアンケート調査の結果のとおり、「知っている」、「だいたい知っている」と回答する児童の割合のほうが多いと感じている。ただし他人の権利まで守れているかという点、また違うデータが出るのではないかと予想する。

本間委員： 中学校では様々な人権教育等を実施しているため、子どもの権利の認知度はもう少し高くてもよいかと思った。各学校で取組はしているが、子どもたちの理解や認知という面ではもう少し工夫が必要だと捉えている。

安藤会長： アンケートの結果だけから計画を作っていくわけではないので、いろいろな観点から発言をいただきたい。

金子委員： 子どもが2人いるが、権利学習テキスト「えがお」やヤングケアラー、子どもの権利について、子どもから聞いたことはない。学校で周知教育しているということだが、何年生から学習しているのか。

安藤会長： アンケート結果を見る前提となる部分について知りたいという趣旨かと思うが、事務局から回答をお願いしたい。

和栗副所長： ヤングケアラーについて、ここ数年、政府も広報等で周知に力を入れていることで、保護者の認知度が向上していると推察するが、子どもについては更なる周知が必要だと考える。学校と相談を重ね、令和5年度から小学4年生以上の「えがお」にヤングケアラーについて掲載し、学習してもらうこととした。

岡委員： 我が家では子どもが権利学習テキスト「えがお」を持ち帰り、置いてあった。学校で学習をしており、家に持ち帰ることも指導されていた。理解の有無に関わらず、継続して学習していくことが大切だと思う。

安藤会長： 岡委員の発言から、子ども・子育て支援総合計画が地道に進み

つつある様子が伺い知れた。具体的な計画の内容と、根拠となるアンケートの結果が出てきた際、改めてチェックしていただくとういと思う。計画の方向性についてはおおよそご確認いただいたということによいか。

各委員： 異議なし

オ その他

9 問合せ先

こども・子育て部こども家庭センター企画管理係 TEL : 025-520-5725 (直通)

E-mail : kodomo@city.joetsu.lg.jp